

平成 30 年度特別選抜（推薦入学） 入学者選抜試験問題

小論文（出題意図）

<医学部看護学科>

問題 1

著者は「他人の見方を自分で実感する」ことについて、ソーシャル・ビューといわれる視覚障害の方を交えた美術鑑賞の取り組みから説明している。語り合いながら美術鑑賞をすることは、他人の解釈の多様性を確認することではなく、頭の中でパーツを仮留めしながら作品を作りあげ、さらに言葉の力によって、柔軟に形を変えて作品を作り直すことである。語り合いの中で他の人の言葉を聞いた上で絵を見ると、本当にそのように見えてくる。これが他人の見方を自分で実感するということである。

問 1：上記のような著者の説明についての文脈の読解能力と、それを限られた文字数で適切にまとめる文章表現能力を問う。

問 2：「他人の見方を自分で実感する」ことの意味を、自分の身近な状況に置き換えて考えることのできる想像力と、自己の考えを具体的・論理的に記述する論理構成能力、および文章表現能力を問う。

問題 2

図 1 は女性における主な部位別にみたがんの年齢調整死亡率を示したもので、年次推移で見ると、胃がんが著しく減少しており、子宮がんも減少傾向にあるが、1980 年から大腸がんは横ばいであり、乳がんは増加傾向にあることが示されている。

図 2 は女性の年齢階級別にみた乳がんの罹患率を示したもので、20 代後半から急増し、40 代がピークになっていることや、経年的には乳がんの罹患率が高くなっている傾向が示されている。

表 1 は女性特有のがん検診の受診率と精密検査受診率及びがんであった者の割合を示したもので、がん検診の受診率は、子宮がんに比べて乳がんの受診率の方が低いが、要精密検査受診率は子宮がんより高く、要精密検査の対象者のうち、がんのある割合も高いことが示されている。

問 1：これらの数量データを読み取る読解力、および読解した内容を限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。

問 2：乳がんの罹患率や検診受診の現状を示す図表データから、対策に結びつく背景を推論する社会的関心や問題意識、またそれをもとに乳がん対策の課題と対策について論じる力、およびそれを限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。